

## 第6回日野市ごみ減量・リサイクル等推進協議会 要点録

### ■会議の日時等

日時 令和4年(2022年)11月15日(火) 午後3時00分～

会場 日野市クリーンセンター プラスチック類資源化施設 2階多目的室

出席者 **協議会委員**

【廃棄物に関し学識経験のある者】

宮脇委員、小野寺委員

【市民委員】

高橋委員、比留間委員、加納委員、畑中委員

【ごみ減量の推進体制の構築に資する事業者及び団体の関係者】

高松委員、多治見委員、津嶋委員、星野委員

【環境保全課長】

中平委員

**事務局**

【ごみゼロ推進課】

高尾課長、高橋課長補佐、山口主任

欠席者 **協議会委員**

【市民委員】

新井委員、佐藤委員、影山委員、木村委員、岩見委員、平井委員

【ごみ減量の推進体制の構築に資する事業者及び団体の関係者】

新野委員、後藤委員、内田委員

【施設課長(クリーンセンター長兼施設課長)】

小笠委員

傍聴者 1名

### 次第

1. 会長挨拶

2. プランの中間検証・改定について

(議事: 第3次日野市ごみゼロプラン(日野市一般廃棄物処理基本計画)の中間検証と  
後期に向けたプランの改定について(素案)の決定)

3. 今までの協議会の活動を振り返って

4. その他

## 配布資料

- 資料1 第3次日野市ごみゼロプラン(日野市一般廃棄物処理基本計画)の中間検証と後期に向けたプランの改定について(素案)
- 資料2-1 第3次ごみゼロプラン中間見直し・改定用の回答シート(まとめ)
- 資料2-2 数値目標の修正前の記載
- 資料3 日野市ごみ減量・リサイクル等推進協議会スケジュール

## ■主な内容

### 1. 会長挨拶

会長より挨拶。

### 2. プランの中間検証・改定について

(議事:第3次日野市ごみゼロプラン(日野市一般廃棄物処理基本計画)の中間検証と後期に向けたプランの改定について(素案)の決定)

事務局より、素案(資料1)について、資料2-1に沿って説明。

前回協議会を受けてたき台を修正、さらに市での再検討や審議会委員からの意見を反映させて素案をまとめた。変更点は以下の通り。

- ・雑誌・雑紙類、新聞の回収量について、集団回収量を含まない実績値を記載していたため、集団回収を含めた数量を記載した。
- ・総資源化率を参考値にすることについては、該当箇所に検証結果についても追記した。
- ・焼却処理量については、現時点で数値目標を下げずに、可能な限りの削減努力を行い、計画期間終了後に検証することとする。また、コロナ禍の影響がなかった場合の推計値も参考に示す。
- ・他に、審議会委員等から意見が寄せられ、一部については微修正を加えた。

### 【質疑応答・意見等】

Q: 焼却処理量のグラフ(P12)には、単位(t)をつけるべき。

A: 修正する。

Q: 他自治体でも同様にコロナの影響でごみ量が増加傾向か。

A: 他自治体でも同様に増。コロナの影響とのこと。

意見:計画推進で一番大事な啓発が減っている。運用面での改善も必要。

A:広報・エコーの紙面は削減傾向。それに代わるものを模索中。アプリ・LINE も工夫し

ながら活用していく。

A:幅広い分野の方々にお集まりいただいている本協議会で、今後もアイデアをいただきながら取り組んでいきたい。

意見:アプリのダウンロード数の指標については、まだ上を目指せる余地があるのなら見直してもいいのではないか。目標設定の考え方については、件数でなく人口比率という考え方もあったかと思う。

意見:ごみが混入すると、資源物がごみになってしまう。分別を気にしない方々への啓発が必要。

Q:不適切な分別の事例紹介も必要ではないか。

A:不適物が出た際には、現物の写真を撮って広報等で周知するなど、啓発している。引き続き取り組んでいく。

意見:無関心な方々へのアプローチを検討しなければならない。

## 【決議】

(会長)

素案について問題なければ、日野市ごみ減量・リサイクル等推進協議会として「可」としたいが、よろしいか。

→全会一致で承認

## 3. 今までの協議会の活動を振り返って

(各委員より、感想や意見)

- ・協議会に色々な方が参加していて勉強になった。市の計画の中でのリサイクルの現状や、これから先のことを考えながら仕事に取り組む大切さを感じた。長い時間かけて中間検証をできてよかった。
- ・様々な分野の各層の委員からなる協議会は、日野市では初めてではないか。いろいろな意見が出ていた。できれば、重要なテーマを設定して、より活発な意見を交わす場があればよかった。その点では物足りなかった。
- ・施設の運転維持管理の観点で、事故事例なども取り扱うほうがよい。市民の協力を得るためにも、電池一つで火災が発生するようなことも伝えていくべき。
- ・ごみの分野は専門外だったので、持ち帰って自身の活動に活かしていきたい。
- ・長年リユース推進の活動をやってきて、このような場にも参加できてよかった。
- ・ごみゼロプランのことも知って、計画の大切さを感じた。広報の紙面が減って、告知の数が減っている。紙媒体だけでなく、スマホを使った LINE やアプリ等を増やすことが効果的。特典があれば普及するかと。市民の分別の問題については、市が素直に「困っている」ことを市民に発信すれば伝わると思う。地区別のごみの分別状況が分かれ

ば解決のヒントになるのではないか。ダンボールコンポストは10年やっている。一気に増やすより、持続できることが大切。レジごみ袋の企画はとてもよかった。

- ・ごみの問題は、日野市の気候非常事態宣言にも大きく関わっている。ごみゼロ推進課と協力して普及啓発していく。特に無関心層へアプローチして、「取り組まないとうなってしまうのか」ということを、SDGsの視点からも共有していきたい。
- ・環境への取り組みについては、会社として結果を出さなければならない。協議会で当社の取り組みを紹介できてよかった。レジごみ袋は周知が広がっているのか、思ったより売れている。日野市の分別はきっちり決められている印象なので、必要な時に詳しい情報を取りに行けるごみアプリの取り組みは良い。業務の都合により、開催曜日も考慮していただけるとありがたい。
- ・コロナ禍の中で、プラスチック類資源化施設がスタートした。個人・団体とも見学者が多く、全国的に注目を集めている。針刺し事故やリチウム電池の発火事故が、稼働後2年半でかなりあり、依然として減らない。驚くほど危険なものもプラごみに混入している。現場が選別の精度を上げていくことも大事だが、市民の適切な分別への啓発活動も大事。今後ごみ減量・リサイクル推進に貢献していきたい。
- ・これまでも数値目標や行動目標に向けて頑張ってきたから、ごみが減っているのだと思う。ごみ減量には、コストをかければ解決することもあるが、そうもいかないのが工夫が必要。協議会の紙資料が多いので、今後工夫できないか。
- ・多方面からの視点で、ごみゼロプランの検証をしていただいたと感じる。協議会の場で、今まで知らなかった立場の方々の活動を知ることができ、プランの内容を精査して改定案を作ることができた。事務局も、委員の発言・意見に丁寧に対応してくれた。

#### 4. その他

事務局より、今後の協議会スケジュールについて、資料3に沿って説明。

(事務局より)

第3次ごみゼロプランの中間見直しが終わった来年以降は、新たな形で、「これから施策をどうしていくか」について、充実した議論ができるよう協議会を運営していきたい。

次回 令和5年2月21日(火)午前10時～午前11時30分  
クリーンセンター プラスチック類資源化施設 2階多目的室